

- ダイズほ場へのマルバアサガオの侵入．東北の雑草 11, 19-21.
- 徐錫元 2007. 愛知県の農耕地における帰化アサガオ類の発生の現状と脅威．植調 41, 17-23.
- 徐錫元 2009. 非農耕地における帰化アサガオ類の発生の現状．植調 42, 477-483.
- 徐錫元 2014. 中部地方での田畑輪換圃場のイネ刈跡における帰化アサガオ類の発生と成長．雑草研究 59, 204-209.
- 澁谷知子・黒川俊二 2013. ダイズと帰化アサガオ類の葉齢展開からみたペンタゾン液剤の処理適期の推定と2回処理効果．雑草研究 58(別), 61.
- 澁谷知子ら 2009a. 出芽期の異なる帰化アサガオ5種の開花・結実期．雑草研究 54(別), 108.
- 澁谷知子ら 2009b. 温暖地での帰化アサガオ類の出芽開花結実時期に基づく圃場周辺の要防除時期 <http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/narc/2009/narc09-34.html>
- 澁谷知子ら 2011. 帰化アサガオ類の圃場への侵入を防止するための圃場周辺管理技術 [http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/narc/2011/152d0\\_01\\_23.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/narc/2011/152d0_01_23.html)
- 住吉正 2011. 九州地域の大豆畑における帰化アサガオ類の発生実態と生態に関する研究．農業及び園芸 86, 433-440.
- 渡邊寛明ら 2009. 温暖地以北の大豆畑における帰化アサガオ類の発生状況と被害内容 <http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/narc/2009/narc09-13.html>
- 渡邊寛明ら 2010. 帰化アサガオ類の生活史特性と対策 3.2008年大豆作での発生地域と適応可能地域の推定．雑草研究 55(別), 55.
- 保田謙太郎 2010. 暖地大豆畑での帰化アサガオ類の発生状況についての現地調査と大豆調製施設からの夾雑物調査．植調 44, 291-295.
- 保田謙太郎 2012. 石川県から青森県までの日本海沿岸地域における帰化アサガオ類の分布．雑草研究 57, 123-126.
- 帰化アサガオ類地域全体へのまん延を防止するためのほ場周辺技術マニュアル(2011) [http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/files/publication\\_narc\\_kika\\_asagao\\_00.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/publication_narc_kika_asagao_00.pdf)
- 大豆畑における帰化アサガオ類防除技術マニュアル(2012) [http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/files/publication\\_narc\\_kika\\_asagao\\_boujo.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/publication_narc_kika_asagao_boujo.pdf)



## 堇 (すみれ)

兵庫試験地 須藤 健一

スミレ科スミレ属スミレ。人の手の入りやすいところにごく普通の多年生草本。国産のスミレ科はスミレ属のみですべて多年生草本。50種以上が日本でみられる。葉はハート形やそれを引き伸ばした形が多く、花は5弁の左右対称で基部に大きな距を作る。

「すみれ」という名の謂れは花の距を引っ掛けてあそぶ「相撲とれ」からとか、若菜として摘む「摘みれ」からなど様々だが、牧野富太郎が大工道具の「墨いれ(墨壺)」に似ているからとしたことからそれが定説のようになっている。ならば、万葉の時代にも同じような「墨壺」があったのだろうか。

万葉かなでは「須美礼」とあて、第8巻に3首が詠われている。

春の野にすみれ摘みにと来し我れぞ野をなつかしみ  
一夜寝にける (山部赤人)

「すみれ摘み」とは女性を誘うこととも。そういえば、西行、定家の歌もそう思えなくもない。

あとたえて浅茅しげれる庭の面に誰分け入りてすみ  
れつみけむ (西行法師)

春雨のふるののみちのつぼすみれ摘みてをゆかむ袖  
はぬるとも (藤原定家)

ところが、芭蕉、一葉と時代が下がり、「すみれ摘み」が「すみれ草」や「花堇」になると趣きが変わる。本来のスミレの生育環境、生態に合って詠まれてくる。

山路(やまじ)きて何やらゆかしすみれ草(松尾芭蕉)  
あるじなき垣ねまもりて故郷の庭に咲きたる花堇かな(樋口一葉)